



## 2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年8月9日

上場会社名 井村屋グループ株式会社 上場取引所 東・名  
コード番号 2209 URL <https://www.imuraya-group.com/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大西 安樹  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長ファイナンス室長 (氏名) 富永 治郎 (TEL) 050-1791-2014  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	9,918	8.7	7	—	186	85.1	166	321.5
2024年3月期第1四半期	9,121	4.0	△92	—	100	△69.0	39	△82.4

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 196百万円(161.2%) 2024年3月期第1四半期 75百万円(△57.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	12.70	—
2024年3月期第1四半期	3.01	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	38,502	20,796	54.0
2024年3月期	38,090	21,005	55.1

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 20,779百万円 2024年3月期 20,985百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	31.00	31.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	0.00	—	31.00	31.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	23,900	4.0	1,150	4.2	1,200	△13.0	820	△14.0	62.67
通期	49,500	2.6	2,600	2.5	2,700	△7.0	1,850	△4.2	141.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期1Q	13,086,200株	2024年3月期	13,086,200株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	2,428株	2024年3月期	2,303株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期1Q	13,083,847株	2024年3月期1Q	13,084,211株

- ※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 有(任意)  
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	10
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書 .....	11

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、不安定な国際情勢が続く中、所得環境の改善やインバウンド消費の増加などにより緩やかな回復基調で推移しましたが、物価高騰に伴う消費者の購買行動の変化など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループはパーパスである「おいしい!の笑顔をつくる」をさらに発揮するため2024年度より中期経営計画「Value Innovation 2026（新価値創造）」に沿って活動しております。変革課題を「2030年を見据えた成長戦略の実行と経営基盤の強化」と定め、SDGsのゴールでもある2030年へ向かってステークホルダーの皆さまと共に持続的な成長を志し、特色ある価値創造企業として社会から共感いただける井村屋グループを目指してまいります。

初年度となる2024年度は活動方針を「先義後利 そして備えよ常に!」として、長期的視野に立ち社会的視点での貢献を忘れず企業経営を行い、目標達成に向けた活動に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高については、井村屋株式会社の菓子カテゴリーや冷菓カテゴリーを中心に売上が増加しました。また、井村屋フーズ株式会社におけるOEM商品の受注が順調に推移しました。その結果、連結売上高は、99億18百万円（前年同期比8.7%増）となりました。

損益面では、引き続き原材料価格や物流費用が上昇する中、商品価格の改定を行うとともに、継続した生産性向上活動によるコスト削減を図ったことで営業利益が改善しました。

以上の結果、営業利益は7百万円（前年同期は92百万円の営業損失）、経常利益は1億86百万円（前年同期比85.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億66百万円（同321.5%増）となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

#### ① 流通事業

流通事業（BtoC事業）の中心となる井村屋株式会社では、菓子・食品・冷菓・デイリーチルドの各カテゴリーで売上が増加しました。BtoB事業の井村屋フーズ株式会社では、スパウチ商品の受注が順調に推移しました。

以上の結果、流通事業の売上高は88億21百万円（前年同期比10.2%増）となり、セグメント利益は3億4百万円（同158.7%増）となりました。

流通事業におけるカテゴリー別の概況につきましては以下のとおりです。

##### （菓子カテゴリー）

防災備蓄用「えいようかん」、「チョコえいようかん」が引き続き順調に推移しました。カステラ商品は前年同期の鶏卵不足が解消し、販売数量の回復にて売上が増加しました。また、以前より和菓子のおいしさに冷凍技術を活かした冷凍和菓子の開発に取り組んできましたが、3月から新商品「井村屋謹製 たい焼き（つぶあん）」の販売を開始し、好評をいただき、売上増加に貢献しております。

以上の結果、菓子カテゴリーの売上高は24億2百万円（前年同期比29.0%増）となりました。

##### （食品カテゴリー）

炊飯器で炊くだけで簡単に調理をしていただける「お赤飯の素」、「豆ごはんの素」が順調に推移しました。冷凍食品では「4コ入冷凍パックまん」シリーズや「ゴールドまん」シリーズの売上が増加しました。井村屋フーズ株式会社の食品加工事業では、コロナ5類移行後の屋外活動活発化に伴いスパウチ商品の受託加工が順調に推移しました。

以上の結果、食品カテゴリーの売上高は12億63百万円（前年同期比2.9%増）となりました。

(デリーチルドカテゴリー)

「豆腐類」では「美し豆腐」や「大豆屋和蔵大豆ッ子」が順調に推移し、その他業務用商品の売上が伸びました。

以上の結果、デリーチルドカテゴリーの売上高は3億21百万円（前年同期比5.8%増）となりました。

(冷菓カテゴリー)

主力商品の「あずきバー」シリーズが順調に推移し、売上金額は前年同期比113.4%となりました。7月1日の「井村屋あずきバーの日」に向けて全国4会場（東京、大阪、名古屋、三重）において、「あずきバー」1万5千本を無料配布するサンプリングイベントを開催し、多くの方にご来場いただきました。また、季節限定発売の新商品「はちみつレモンアイスバー」が好評をいただき売上増加に貢献しました。マレーシアのIMURAYA MALAYSIA SDN. BHD.においても、新鮮なドリアンの香りと濃厚な味をお楽しみいただける新商品「MOCHI MOCHI MUSANG KING DURIAN&DURIAN」を発売し、マレーシア国内市場拡大に取り組んでおります。

以上の結果、冷菓カテゴリーの売上高は41億92百万円（前年同期比5.9%増）となりました。

(点心・デリカテゴリー)

「肉まん・あんまん」などの点心・デリカテゴリーは、「肉まん・あんまん」が今年度発売60周年を迎え、本格的なシーズンに向けて設備増強や販売促進の準備を着実に進めております。4月～6月は需要の最も少ない期間であり、高温の影響もあり売上は前年同期より減少しました。

以上の結果、点心・デリカテゴリーの売上高は5億12百万円（前年同期比2.1%減）となりました。

(スイーツカテゴリー)

スイーツカテゴリーでは、客数が順調に増加し「La maison JOUVAUD（ラ・メゾン・ジュヴォー）」各店舗の売上は広尾店、虎ノ門ヒルズ店、京都伊勢丹店が前年同期を上回りました。また、「アンナミラージュ」では、昨年に続き、横浜高島屋において6月に期間限定でポップアップショップを出店し多くのお客様にご来店いただきました。しかしEC販売が前年同期を下回りました。

以上の結果、スイーツカテゴリーの売上高は98百万円（前年同期比2.5%減）となりました。

(VISON（ヴィゾン）カテゴリー)

VISON（ヴィゾン）カテゴリーでは、三重県の水と酒米、酵母を使用し、テロワールに根差した日本酒の製造・販売を行う「福和蔵」と、和菓子を販売する「菓子舗井村屋」の2店舗を三重県多気町の大型商業リゾート施設VISON内にて運営しております。「福和蔵」においては、発売以来、様々な品評会で受賞をいただいておりますが、2024年5月には令和5酒造年度全国新酒鑑評会において「福和蔵 純米大吟醸」が初の金賞を受賞し、高い評価をいただきました。「菓子舗井村屋」においては、「酒々（ささ）まんじゅう 芳醸菓」や特色のある季節限定商品を店舗にて販売し、好評を得ております。

以上の結果、VISON（ヴィゾン）カテゴリーの売上高は29百万円（前年同期比5.3%増）となりました。

## ② 調味料事業

国内では井村屋フーズ株式会社のシーズニング事業において、得意先の内製化によりOEM商材の売上が減少しましたが、2023年9月に竣工したスプレードライヤー6号機は計画通りに稼働し、生産性の向上や環境負荷の低減に取り組み、利益確保に注力しました。

中国での調味料事業は、経済回復の遅れから中国国内の売上が伸び悩みました。

以上の結果、調味料事業の売上高は10億43百万円（前年同期比1.8%減）となり、セグメント利益は1億5百万円（同30.3%減）となりました。

## ③ その他事業

イムラ株式会社においてSDGsの一環として井村屋商品のアウトレット販売を行っている「MOTTAINAI屋」は、引き続き地域のお客様に好評いただいております。また、「ソフトアイスクリーム&スイーツ店WaiWai（ワイワイ）」においては、季節のデザートなども販売し売場の活性化を図りました。

以上の結果、井村屋グループ株式会社の賃貸事業を加えた、その他事業の売上高は53百万円（前年同期比0.6%減）となり、セグメント利益は人件費の上昇要因もあり7百万円（同33.5%減）となりました。

## (2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は385億2百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億11百万円の増加となりました。流動資産は、夏物商品の最盛期に対する供給体制を確実にするための製品在庫の増加などにより、5億35百万円増の149億62百万円となりました。固定資産は、有形固定資産の減価償却が進んだことなどにより、1億23百万円減の235億39百万円となりました。

負債は177億5百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億20百万円の増加となりました。流動負債は、短期借入金の増加などにより、5億86百万円増の149億88百万円となりました。固定負債は、長期繰延税金負債の増加などにより、33百万円増の27億16百万円となりました。

純資産は配当金の支払いなどにより、2億8百万円減の207億96百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期に向けては、夏場の主力商品である「あずきバー」の売上増加をはじめ、業績は順調に推移する見込みです。また、点心・デリにおいては今年度「肉まん・あんまん」が発売60周年を迎えます。周年イベントやキャンペーン等を予定しているとともに、商品の導入計画も順調に進捗しておりますので、2024年5月9日付の「2024年3月期決算短信」において公表いたしました業績予想につきましては現時点では変更はありません。

ただし、景気の停滞や世界的な経済状況の変動、原材料の高騰などの環境変化によって業績予想の修正が必要であると判断される場合は、速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,326,715	1,501,668
売掛金	8,084,740	7,618,488
商品及び製品	3,178,595	3,953,611
仕掛品	315,921	318,033
原材料及び貯蔵品	795,870	849,919
その他	726,521	722,091
貸倒引当金	△1,450	△1,393
流動資産合計	14,426,915	14,962,420
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	20,337,950	20,377,120
減価償却累計額	△11,730,635	△11,911,394
建物及び構築物 (純額)	8,607,315	8,465,725
機械装置及び運搬具	20,318,959	20,400,437
減価償却累計額	△14,991,860	△15,290,131
機械装置及び運搬具 (純額)	5,327,098	5,110,306
土地	4,369,858	4,369,858
その他	2,308,933	2,461,756
減価償却累計額	△1,167,396	△1,210,178
その他 (純額)	1,141,537	1,251,578
有形固定資産合計	19,445,809	19,197,468
無形固定資産		
リース資産	110,105	100,672
その他	25,351	23,718
無形固定資産合計	135,456	124,391
投資その他の資産		
投資有価証券	2,233,321	2,360,631
退職給付に係る資産	1,404,321	1,408,852
その他	448,711	452,539
貸倒引当金	△4,276	△4,276
投資その他の資産合計	4,082,078	4,217,747
固定資産合計	23,663,344	23,539,607
資産合計	38,090,260	38,502,027

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,075,620	3,172,045
電子記録債務	1,911,032	1,831,591
短期借入金	3,700,000	5,450,000
未払金	3,527,395	3,036,421
未払法人税等	608,005	73,441
賞与引当金	652,551	398,179
その他	927,463	1,027,190
流動負債合計	14,402,069	14,988,870
固定負債		
執行役員退職慰労引当金	68,592	63,186
資産除去債務	143,213	143,506
その他	2,470,668	2,509,681
固定負債合計	2,682,474	2,716,373
負債合計	17,084,543	17,705,243
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,576,539	2,576,539
資本剰余金	3,810,519	3,810,519
利益剰余金	11,405,673	11,166,172
自己株式	△5,104	△5,412
株主資本合計	17,787,628	17,547,819
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	741,415	831,352
土地再評価差額金	1,930,419	1,930,419
為替換算調整勘定	△68,865	△94,341
退職給付に係る調整累計額	594,532	563,914
その他の包括利益累計額合計	3,197,501	3,231,345
非支配株主持分	20,586	17,619
純資産合計	21,005,716	20,796,784
負債純資産合計	38,090,260	38,502,027



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年6月30日)
売上高	9,121,862	9,918,298
売上原価	6,098,410	6,608,496
売上総利益	3,023,451	3,309,802
販売費及び一般管理費	3,115,909	3,302,075
営業利益又は営業損失(△)	△92,458	7,726
営業外収益		
受取配当金	30,653	38,394
受取家賃	8,520	8,606
為替差益	142,057	113,373
その他	25,936	32,212
営業外収益合計	207,167	192,587
営業外費用		
支払利息	12,862	13,193
その他	915	294
営業外費用合計	13,778	13,488
経常利益	100,930	186,825
特別利益		
補助金収入	3,698	42,533
受取補償金	-	59,429
その他	-	3,481
特別利益合計	3,698	105,443
特別損失		
固定資産除却損	0	301
棚卸資産処分損	-	35,597
特別損失合計	0	35,899
税金等調整前四半期純利益	104,629	256,370
法人税、住民税及び事業税	59,631	48,133
法人税等調整額	8,146	44,723
法人税等合計	67,778	92,857
四半期純利益	36,850	163,512
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,557	△2,586
親会社株主に帰属する四半期純利益	39,408	166,099

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	36,850	163,512
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	116,394	89,937
為替換算調整勘定	△63,266	△25,854
退職給付に係る調整額	△14,552	△30,618
その他の包括利益合計	38,575	33,463
四半期包括利益	75,426	196,976
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	76,451	199,942
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,025	△2,966

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,005,060	1,062,978	9,068,039	53,822	9,121,862
セグメント間の内部売上高 又は振替高	15,846	6,688	22,534	3,615	26,150
計	8,020,906	1,069,667	9,090,574	57,438	9,148,012
セグメント利益	117,772	151,167	268,939	10,593	279,533

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	268,939
「その他」の区分の利益	10,593
全社費用(注)	△371,992
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△92,458

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,821,150	1,043,645	9,864,796	53,502	9,918,298
セグメント間の内部売上高 又は振替高	16,650	7,062	23,712	4,090	27,803
計	8,837,801	1,050,707	9,888,509	57,593	9,946,102
セグメント利益	304,655	105,298	409,954	7,047	417,002

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	409,954
「その他」の区分の利益	7,047
全社費用(注)	△409,275
四半期連結損益計算書の営業利益	7,726

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	467,947千円	540,234千円

## 独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年8月9日

井村屋グループ株式会社  
取締役会 御中

五十鈴監査法人  
本部・津事務所

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 中 出 進 也

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 岡 根 良 征

### 監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている井村屋グループ株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2024年4月1日から2024年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2024年4月1日から2024年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して、作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。